

# アニマルランド NEWS

わんぱーくこうちアニマルランド  
№94 Jan 2019

2019年

猪突猛進！イノシシ展 イノシシのイメージがかわるかも？

四国にカモシカがいるのを知っていますか？

いきもの講座 「もっと知りたい！パンダのふしぎ」

# 10月から12月

- 10/7,11/11,12/23 裏側探検隊 開催
- 10/14 らんちゅう品評会 開催
- 11/4 動物愛護のつどい 開催
- 12/8 ジャガー ハクの誕生日会 開催
- 12/13~2/5 えと展 開催
- 12/22 干支のひきつぎ式 開催
- 12/23 クリスマスマつり 開催



## 動物愛護のつどい

動物愛護のつどいでは、クイズラリーと慰霊祭をおこないました。クイズラリーではアニマルランドオリジナルのキーホルダーを参加賞としてプレゼントしました。

ジャガー、ハクの1歳の誕生日をワンポイントガイドで祝いました。手前がハクです。



## ジャガーのハク 1歳の誕生日会



## いきもの講座

いきもの講座ではアドベンチャーワールドより品川友花さんをお招きし、パンダのお話をいただきました。

# のできごと



裏側探検隊

年末の裏側探検隊はシマウマ舎をご案内しました。普段はできないエサやり体験もしていただきました。



干支ひきつぎ式



干支のひきつぎ式をおこないました。イヌ代表はわんぱくのホンダタヌキ。イノシシ代表は桂浜水族館のイラです。イラは猪歯魚と書く魚です。タヌキには感謝状、イラには委託状が送られました。



クリスマスまつり



クリスマスまつりでは今年もサンタさんからお菓子のプレゼントがありました。

# 2019年 猪突猛进！イノシシ展 イノシシのイメージがかわるかも？



新年あけましておめでとうございます。昨年は年間を通して各地で災害（北海道や大阪の地震、西日本豪雨<sup>こうう</sup>など）が発生し、その年を表す漢字も「災」になるほど荒れた一年だったように感じます。2019年は一転して穏やかな一年になればいいなと思います。

さて、アニマルランドでは毎年年末から年始にかけて、その年の干支にちなんだ特別展「えと展」を開催しています。えと展は2006年の「戌」（イヌ）から始まり、今回で14回目を数えます。そして今年の干支は「亥」、そうイノシシが主役となりました。前回2007年の亥年特別展も自分が担当したので、もう12年が経過したかとしみじみ思われます。ちなみに2007年に何があったかといえば、一年を表す漢字が「偽」になるなど食品偽装問題<sup>ぎそう ひんぱつ</sup>が頻発した年でした。他にも初代 iPhoneが発売されたり、今ではメジャーとなったボーカロイドの初音ミクが登場したのもこの年でした。

話が少し脱線しましたが、本題の「イノシシ」に戻ります。イノシシと聞くと大多数の人が怖いイメージを持つと思います。現在、農家や山登りをされている方以外だと、イノシシを生で直接見る機会はそんなにありません。そのため、彼らを見る・知る機会が比較的多い新聞やTVでは、どうしても被害の情報の割合が多くなってしまい、それ以外の情報があまり知られていません。そこで、イノシシの他の一面も知ってもらおうと思い、今回の記事を書いています。

イノシシは偶蹄目イノシシ科の動物です。偶蹄目は2つに割れたヒヅメを持つ哺乳類で、ウシやシカの仲間になります。イノシシ科は5属16種（種の数には諸説あります）で、世界各地で暮らしています。日本にはイノシシの亜種（「種」を細かく区分したもの）のニホンイノシシが本州・四国・九州に、沖縄にはリュウキュウイノシシが暮らしています。ちなみに干支の「亥」は日本ではイノシシ（猪）ですが、中国ではブタ（猪）が該当します。では中国でイノシシはどう書くかといえば、野猪がそれにあたります（日本以外に干支がある国でも、亥＝猪＝ブタになるケースが多いようです）ブタもイノシシに関係がありまして、イノシシを家畜化したものがブタです。日本では縄文時代からイノシシを飼っていたと言われていますが、そのイノシシがブタになったというよりも、弥生時代にアジア各地から家畜化されたブタを導入したことが始まりだと言われています。

イノシシは日本人の生活に昔から密着していました。特に彼らの肉はシカと並んで重宝されていました。これは古来の日本人に食用の家畜を育てる習慣が少なく、肉を狩猟<sup>しゅりょう</sup>で得ることが多かったことがあります。ところが飛鳥時代に仏教が伝来すると、仏教の「動物の殺生を禁ずる」という教えから、獣肉<sup>じゅうにく</sup>などを食べるのが特に貴族階級において禁じられるようになりました。そのため表向きはイノシシを食べてはいけないようでしたが、裏ではイノシシ肉の事を「山鯨」（肉の触感がクジラに似ているため）と称し、禁忌に触れない魚の肉として食べていたそうです。



猪武者

## 参考文献

「十二支の話題辞典」

東京堂出版

「もっと知りたい！十二支のひみつ」

小学館

「イノシシから田畑を守る」

農文協



そんな人間と共存して暮らしていたイノシシなので、人が使う言葉にも彼らが登場しています。みなさんがイノシシ（猪）のつく言葉と聞いて、真っ先に浮かびそうなのが「猪突猛進」です。この言葉は「周囲の人のことや状況を考えずに、一つのことに向かって猛烈な勢いで突き進むこと」で、あまり良い意味では使われません。同じく「猪武者」という言葉も「状況を考えないで、がむしゃらに事を行う人」という意味で、こちらも「猪突猛進」と同じような意味合いになっています。このことから、イノシシ=単細胞で、周りを見ずまっすぐにしか生きられないイメージになっていることがわかります。ですが、本来の彼らはこの言葉のイメージ通りの姿ではありません。普段のイノシシはヤブの中で木の根や果物、小動物を食べながらゆっくり歩き、めったに走ることはありません。ですが人間や猟犬に追われた際に追い詰められ逃げ道がなくなって人間の方向へ突進したり、怖さからパニックになって激しい勢いで周りにぶつかることがあります、その事が言葉の由来になっています。ですので、本来の静かな彼らの姿から見ると、この言葉をもってイノシシの姿をイメージすることは少し違うと思えます。

「猪突猛進」はめったにしません、外見から想像される重そうなイメージとは違い、イノシシは時速50kmで走ることができると言われます。ジャンプ力も1メートルを超え、体高より高い柵も簡単に飛び越えてしまう能力があります。もし、飛び越えられない高さの柵があっても、彼らには力強い武器「鼻」があります。彼らの鼻先は長く、また固いので、60kgを超える重さの扉を持ち上げられる力があります。このように見た目以上の身体能力があり、農家を困らせる存在になっているのが残念なところ

です。  
現在開催中のえと展「猪突猛進！イノシシ展！」は2月5日（火）まで開催しています。今回紹介したイノシシの起源や能力、言葉の他に、ニホンイノシシの頭骨、狛犬ならぬ狛イノシシがある神社の紹介など、いろいろな方向からイノシシの紹介をしていますので、ぜひご覧ください。（大地博史）



左上 イノシシ  
ヨーロッパやアジアに分布

左下 カワイノシシ  
アフリカの熱帯雨林に生息

右上 イボイノシシ  
アフリカのサバンナなどに生息



# 四国にカモシカがいるのを 知っていますか？

カモシカの親子



アニマルランドの一番奥、プレイランドとの境近くにある展示場に、四国产のニホンカモシカ達は住んでいます。今日もお客様が「かもしか？シカと違うの？」と話しながら、おそろおそろカモシカ展示場前にある？マークの付いた箱に手を入れています。（何が入っているかは実際にさわって確かめてください）そんな動物園の中では当たり前前の光景が見られる一方で、四国の野生のニホンカモシカ達は大変な状況に陥っているようなのです。

今回の記事を書くにあたり、過去のカモシカの保護件数を出してみました。私は近年カモシカの保護件数が少ないと思っていましたが、そうでもありません。平成10年から29年までの20年間に15頭保護されています。4年間に3頭は来ていることとなります。保護要因は親とはぐれた幼獣か、足の骨折を負った成獣がほとんどです。ただ、人工哺育が必要な幼獣の保護が平成23年を最後にないため、それが「カモシカ保護件数が少なくなった」と私が思い込んだ理由かもしれません。代わりに骨折した成獣が多くなりました。保護されるためには人に発見されなければなりません。つまり、ある程度人目に付く場所にカモシカがいたこととなります。

平成29年1月から2月にかけて、2頭は当園に搬入後、2頭は搬入前、合計4頭の野生のカモシカが死にました。この事について、当園OBで野生のカモシカ観察をされている中西さんに聞いてみました。私は骨折したカモシカは、崖から落ちたからだと思っていました。でも中西さんに聞くと、「カモシカが落ちるはずはない」とのこと。確かに元々カモシカは絶壁でも暮らしている生き物で、そんな彼らがひどい骨折を負うのは不自然です。ではなぜかと問うと、「シカ圧」による「交通事故」との答えが返ってきました。つまりこうです。シカは群れでその一帯の食べられる植物を食べつくしては移動します。カモシカは単独で縄張りを持ち、その中で暮らしています。植物が少ない冬にシカに食べつくされた結果、エサを求めて普段出てこないような場所に現れ事故にあうのではないかと。この話を聞いて、私は当園で暮らすある個体を思い出しました。

平成27年に保護された若い雌は、足ではなく顔面をひどく損傷していました。角は折れ顔が腫れて目が見えないように思えました。あまりにボーッとしているので、脳への損傷も疑われました。この個体が保護されたのは標高が低い民家の近くで、カモシカが普段生息しているのとは異なる場所でした。安静にして栄養をつけて回復してほしいため、餌を用意しましたが食べてくれるか不安でした。草食獣は、食べ物に対する執着が肉食獣より薄く警戒心も強いので、保護した際に拒食することがあります。なのにこの個体は、木の葉や草や野菜のほかに、草食動物用人工飼料であるペレットも食べたのです。ただの食いしん坊だと思っていましたが、餌への執着は、人里にまで出ずにいられなかった飢えと関係しているかもしれません。その後回復したこの個体はアヤと名付けられ、ニホンカモシカは特別天然記念物のため現状変更を行い、アニマルランドの一員となりました。今は2頭目の子供、テナアの子育てをしている肝っ玉母さんです。

高知県レッドデータブック2018動物編によると、高知県のニホンカモシカは絶滅危惧Ⅱ類（VU）にランク付けされています。生息数が十数頭といわれる四国のツキノワグマは絶滅危惧Ⅰ類であり、哺乳類の中ではその次に危機的状況にあると思われれます。九州ではツキノワグマの絶滅が宣言され、ニホンカモシカもそれに続くかもしれない状況です。四国のニホンカモシカは生息数が1000頭前後と推測され、調査の度に減少が指摘されています。これは四国からカモシカがいなくなる瀬戸際といってもいいかもしれません。それでもまだ四国では可能性があると信じています。まずは四国のカモシカの現状を知って下さい。

（吉澤未来）

# 第18回アニマルランドいきもの講座 「もっと知りたい！パンダのふしぎ」

18回目を迎えたアニマルランドいきもの講座。今回は和歌山県のアドベンチャーワールドより<sup>しながわ ゆ</sup>品川友花さんを講師にお招きし、「もっと知りたい！パンダのふしぎ」と題して<sup>みりよく</sup>ジャイアントパンダの魅力をお話ししていただきました。多くの方に参加していただき、<sup>だいせいきょう</sup>大盛況となりました。

ジャイアントパンダは体長140～160cm、体重100～140kg、中国の中西部の標高1500m以上の高山地帯に生息しています。野生の頭数は約1800頭、世界中の動物園での飼育頭数は約520頭（2017年現在）と非常に少ない状況です。この状況を改善するために、アドベンチャーワールド他、世界中の動物園では<sup>はんしよく</sup>繁殖研究をおこなっています。アドベンチャーワールドではこれまで11頭の繁殖に成功しており、次の繁殖へとつなげています。現在アドベンチャーワールドでは6頭飼育しており、今回貴重な映像を見ることができました。

ジャイアントパンダは食肉目ジャイアントパンダ科に属しており、実は肉食動物の仲間です。肉食動物といってもパンダの主食は「竹」です。今回はパンダの糞<sup>ふん</sup>を持ってきていただいて糞の中に何が入っているか解体したり、においをかいだりしました。糞はジャイアントパンダのエサでもある竹の未消化のものがほとんどでした。実際ににおいをかいだ私の感想は、お茶の葉っぱのようなにおいを感じました。なかなかこのような体験をすることはできないので、参加者のみなさんも貴重だったと思います。

たくさんの映像の中に、2018年8月14日に産まれた赤ちゃんパンダの映像もありました。ジャイアントパンダの産まれたばかりの赤ちゃんの大きさは約20cmで体重は100～200gです。お母さんパンダは多くの時間を赤ちゃんの世話についやしていることがわかりました。映像を見ている参加者のみなさんからは「かわいい～！！」という声がよく聞こえてきました。参加者のみなさんに、産まれたばかりの赤ちゃんの大きさや体重を再現した手作りの人形をもってもらいました。

ジャイアントパンダの赤ちゃんは、ふたごで産まれてくることが多いようでその確率は約60%です。母親は通常片方の赤ちゃんしか育てませんが、片方の赤ちゃんを預かる「入れ替え哺育」をすることで、赤ちゃんの育成率が格段に上がったそうです。お母さんパンダはエサに集中すると赤ちゃんを入れ替えても気付かないようで、あまり細かいことは気にしないのだと思いました。お母さんと一緒にいる時間はとても大切で、他のパンダとの関わり方なども学び、将来の繁殖にも影響するようです。

今回、ジャイアントパンダの色々なお話や映像を見ることによって、今まで以上にジャイアントパンダの魅力を知ることができました。みなさん、ジャイアントパンダを見にアドベンチャーワールドへ足を運んでみてはいかがでしょうか。  
(山本将充)



実物の赤ちゃんと同じ大きさ重さの人形



糞の中には何がある？

# あにまるきゃっち★ №26



かわいい帽子姿の兄弟をキャッチ

左から

日野 <sup>みちまさ</sup>道応さん  
<sup>えいすけ</sup>英亮くん(3歳)  
<sup>みちとし</sup>道世くん(6歳)  
<sup>りょうこ</sup>亮子さん

三重県からのご来園です。  
奥様のご実家のある須崎市へ帰省されているそうです。  
遠いところを来ていただきありがとうございます。  
また、イベントなどに参加しに帰ってきてね♪

## 1月から3月のイベントとお知らせ

開催中 2月5日(火)まで  
2019年 猪突猛進！イノシシ展

1月2、3日 13:30～  
2月10日(日)、3月17日(日) 14:30～  
裏側探検隊 各日先着20名  
参加者全員にアニマルランドカードプレゼント♪

1月19日(土)、20日(日)  
わんぱくこうち ちびっこ雪まつり  
イベント広場でそり遊びや雪遊びができます。  
雪不足の場合は1月26日(土)、27日(日)に延期と  
なり延期日も雪不足の場合は中止となることがあり  
ます。  
お問い合わせは公園管理課へ(Tel 834-1890)

3月3日(日) 10:00～  
プレイランド・ひな祭りプレゼント  
先着50名、小学生以下の女の子にプレイランドチ  
ケット(100円券)を1人3枚プレゼントします。  
お問い合わせは公園管理課へ(Tel 834-1890)

3月23日(土)～4月7日(日)  
わんぱくこうちまつり  
チューリップの塔を展示します  
4月7日は10時からイベントを開催します

日・祝 14:30～  
(裏側探検隊がある日曜日は前日の土曜日に変更)  
ワンポイントガイド  
動物の解説を飼育スタッフがおこないます

1月2日(水)、3月27日(水)、4月3日(水)  
※臨時開園

1月10日(木)  
※振替休園

### 動物たちのエサの時間

キツネザル	毎 日 10:00～
リクガメ	毎 日 10:30～
チンパンジー	毎 日 13:30～
フラミンゴ	毎 日 14:00～

※ 動物の体調により中止になる場合があります

表紙 「ショウジョウトキ」

2019年1月2日発行  
発行・わんぱくこうちアニマルランド  
〒780-8010 高知市棧橋通6-9-1  
TEL088-832-0189 FAX088-834-0929  
Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp  
編集 久川智恵美

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>  
アニマルランドニュース 1、4、7、10月の年4回発行  
ホームページでも配信中

わんぱくこうちアニマルランド 検索